

日本生協連 主催

ピースアクション2020 in ヒロシマ
オンライン開催 視聴

「子どもたちの未来に

核兵器のない世界を手渡さなければなりません」

まずは関心をもとう

千田 加奈子さん

(枚方まき地域活動委員会)

今年は戦後75年という節目の年になります。75年前の8月6日、一発の原子爆弾が投下され、一瞬にしてたくさんの方の尊い命を奪い、皆の日常を地獄にしました。

被爆体験伝承者から83歳の被爆体験者のお話をオンラインで聴きました。

このヒバクシャの方は当時小学生で、『水をくれ』と大火傷の二人に頼まれ、水をあげ、飲み終えたら亡くなりました(水をあげたらダメだと知らなかったのです)。それから10年もの間、その事が忘れられなかったそうです。このようなお話を聴き、原爆は小学生の善意の心までも苦しめ続けたことを知りました。

ヒバクシャの方々が年々減ってきている中、戦争を経験していない私たちにできることは何だろうか？まずは関心を持つ。そして、自分ができることからやってみよう。私たちの平和な暮らしのために。

まるで私たちも

同じ体験をしているよう

備瀬 陽子さん

(枚方まき地域活動委員会)
初めて被爆体験伝承者の方のお話を伺いました。伝承者は自身が伝えていきたいテーマを持ったことを願います。

次の世代へ伝える大切さ

高木 順子さん

(山田東パル委員会・枚方やまだ地域活動委員会)

8月に入ると新聞の記事でも戦争の体験談が多く載せられています。当時10歳ばかりの少年が勤務奉仕で使っていた工作機械がアメリカ製で子ども心に敵国との技術の差を感じとったとありました。国民の中でも戦争への疑問を持つ人がいたと思います。戦争は兵士だけの問題ではなく、それを支えるために国民のすべての犠牲の上に立つものです。

重なる空襲、原爆投下で平穏な毎日、家族で語らい食事をするという当たり前の日々が無になるという恐怖感を持って今回のお話をお聞きしました。国、政府による暴走が民意に関わらず戦争の闇へと突き進んでいったことがやるせない気持ちです。

今日のお話や体験を語ってくれた方々は高齢になり、年々戦争を取り上げる記事も少なくなってきた気がします。二度と人々が辛く悲しい思いをしないために、戦争を知らない世代であっても見聞き

バクシヤの方を選び、その方の被爆体験に向き合い、事実を忠実に伝えます。ですので、伝承者の方が、被爆体験者の記憶に沿って、原爆被害の恐ろしさを科学的に、また、時代背景なども含め、忠実に話していたら、まるで私たちが被爆の現場で同じ体験をしているような気持ちになりました。

そのお話には、ちよとした偶然が重なり、生死が分かれてしまいう内容がありました。同じ中学生でも学校が違う、建物疎開作業の場所、原爆が投下された時にいた場所など、戦争がなかったら、原爆がなかったら普通に中学校に通っていた子どもたちが、一瞬のうちに人生が奪われたという、あまりにも過酷な運命に心が押しつぶされそうになりました。だからこそ、私たちは、子どもたちの未来に核兵器のない世界を手渡さなければなりません。また、戦争の不条理さと残酷さを伝え続けなければなりません。そのために、今できることを確実にやっていきたいと思いました。

原爆の被害の大きさを実感

乾 信子さん

(枚方まき地域活動委員会)

オンライン碑めぐりについて、原爆ドームの維持も大変ですが、他の多くの被爆建物の維持もして欲しい。原爆供養塔に引き取り手がない7万柱の遺骨が納められ原爆の被害の大きさを実感します。

した事実を次の世代へ伝えていく大切さを感じました。

多くの人の参加につながる

原田 待子さん

(枚方まき地域活動委員会)

コロナ禍の中で、新しい参加形態が生まれたのではないのでしょうか。この新型コロナウィルス感染症が終息したのち(完全終息とはならないまでも)、広島・長崎の現地で、そしてオンラインでより多くの人の参加につながってほしいと思います。

これまで何度か、広島・長崎のピースツアーに参加しました。その度に原子爆弾の被害が、今なお続いていることに胸が締め付けられます。広島平和記念公園の中には60力所もの慰霊碑があることを知り、改めて訪れたい気持ちになりました。

20数年前にアメリカに旅行した時、飛行機の歴史の展示場に、エノラ・ゲイとリトルボーイ、ファットマンの模型、そして操縦士の写真が英雄として展示されていた事を思い出しました。投下したその下でどんなことが起こっていたのか、その実相を伝える場であるNPT再検討会議が延期されたことが残念でなりません。

※1 エノラ・ゲイ…広島に原爆を投下したアメリカ軍の爆撃機
※2 リトルボーイ…広島に投下された原子爆弾の呼び名
※3 ファットマン…長崎に投下された原子爆弾の呼び名

佐々木貞子さんが入院中に折り鶴を千羽以上折っていたと知り貞子さんの気持ちを思うとつらい。被爆体験伝承講話は当時の社会情勢を織り交ぜて話され、わかりやすかった。特に橋ですれ違った顔が風船のように腫れあがった姉妹の姉が妹と手をつなぎ「しっかりね」と励ましていたことは、本当につらく涙が出ました。全身火傷で皮が垂れ下がりがりながら歩いている人々は、どれ程、苦しかったでしょう。絶対に繰り返してはいけません。平和を守らないといけないと強く思いました。

戦争は当たり前の日常を奪う

上林 恵子さん

(山田東パル委員会・枚方やまだ地域活動委員会)

原爆が落ちたとき、大阪にいた私は6歳で幼かったせいであまり深く考えなかったことを覚えています。

しかし、少し大きくなった時には、広島や長崎で想像以上の悲惨な出来事が起こったことに対して悲しみと怒りを覚えました。ですので、今でも原爆資料館に入ると心が凍り付く思いがします。

今日、被爆体験伝承講話を聞き、原爆で全身に大やけどを負い、生死の境をさまよいながらも、「わが家へ帰りたい！」という一心な思いで歩き続けた人達の姿に胸が詰まりました。また、通っていた中学校の違いが生死の分かれ目に

平和がずっと続くことを

吉岡 洋子さん

(交北パル委員会・枚方やまだ地域活動委員会)

原爆投下後の様子は写真でも絵で見ても恐ろしい。そんな悲惨な戦争をおこしたら絶対にだめだと思つ。特に、なんの罪もない子どもたちが原爆の被害に合い、死んでいったことはとても悲しい。

日本ユニセフ協会
からのお知らせ

エスディー・ジーズ 子ども向けSDGs学習サイト 「SDGs CLUB」オープン！

unicef for every child



誰ひとり取り残されことなく、人類が安定してこの地球で暮らし続けることができるように、世界のさまざまな問題を整理し、解決に向けて具体的な目標を示したのが、SDGs(持続可能な開発目標)です。

ひとりで興味のあるページを見たり、おうちの人やお友だち、先生と話し合いながら見ると、さらによく分かったり、自分にできることを発見できたりするかもしれません。一度見てみてね！

- 17の目標のもとにある、169のターゲットの子ども訳を掲載
- 目標ごとの代表的な課題に関するデータや動画の紹介
- SDGsができるまでの歴史を見たり、動画でSDGsを知ったりすることができます
- 行動のヒントを得る動画紹介
- 自分の行動宣言を考えたり、投稿したりできる機会の提供



<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>



2020年6月度

フードドライブ活動で
ご提供いただいた品数と量目

たくさんの食材のご寄付ありがとうございました。組合員の皆さまからのお気持ちは、子ども食堂の方へちゃんとお届けします。

全ての店舗 (9店)の合計	362品	135Kg
京橋事務所と 全ての組合員会館 (4会館)の合計	117品	34.5Kg
総合計	479品	169.5Kg

〈今後のフードドライブ回収週〉

9月

- ◆店舗は9月20日(日)～26日(土)
- ◆組合員会館・京橋事務所(本部)は9月21日(月)～25日(金)

10月

- ◆店舗は10月25日(日)～31日(土)
- ◆組合員会館・京橋事務所(本部)は10月26日(月)～30日(金)

引き続き、ご協力をよろしく願いいたします。

日本生協連の「2020ピースアクション特設ポータルサイト」では、録画した内容を見逃し配信される予定です(8月21日ごろから順次)。

●<https://peace.jccu.coop/>
スマートフォンならこちらから→→→→



※見逃し配信のご視聴は事前の参加登録がなくてもどなたでもご覧いただけます
※当日トラブルにより録画データが配信できない場合があります
※配信期間は期間限定とします(実施後2か月程度を予定)



←核兵器の廃絶を実現するため「ヒバクシャ国際署名」にご協力ください。
パルコープホームページの専用フォームからも署名ができます。締め切り9月7日(月)

ご協力ありがとうございます
42,128筆(8月18日現在)